

12-9-3

大正九年九月一日三種認可
電通前特ノ

日本電報

◎山本伯岳川方面へ逃走

▽身邊ニ山之内賊部至活路アリ

(主曰長野支局經由長崎奔)

山本権兵衛伯ハ昨一日ノ大震災ニ

自叙兇変ノ導アリタルガニ曰ハ午

後三時頃親仕ヲ終ハリ水交社

ニ到リタル時数名ノ暴漢ニ襲ハレ

タルモ巧ミニ其ノ難ヲ免カレタリ伯ハ

身邊ニハ山之内賊部平沼三氏アリ折

カラノ猛火ヲ侵シテ岳川方面ニ逃走

シタルモ海邊ハ海濱ニ繋ハレ全ク滞

鼠トナリタリト言フ曰下行衛不即ナリ、

(三日午前三時五十八分)

長九十九日...
昭和二十一年

九月三日
日本郵政

○呉ヨリ救援隊出勤ス

▽天龍以下駆逐艦隊

呉三日特電

呉鎮守府ニテハ被害地ヨリ救援ノ報ニ接
シ重艦天龍ニ多量ノ食料品ヲ積載シ急行
セシムルコトトナリタルガ之ト同時ニ横
須賀鎮守府ヨリ救援隊出勤ノ報ニ接シタ
ルヨリ速ニ重艦扶桑第十四駆逐隊第四駆
逐隊其ノ他所屬豫備艦隊全部出勤スルコ
トトナレリ。(三月三十一日四時五十分着)

○横須賀全市ノ火焰

▽御真影ハ他ニ御移シ申ス。

横須賀全市ハ猛火ニ包マレ負傷者数萬ニ
上リ鎮守府ニ安置サレタル御真影ハ
他ニ移シ申上ゲタリ。(同上)

大正九年九月一日 三層突可
電通さるゝ

日 本 電 報

① 六百ハ下敷三百ハ焼死

△浅草公園ノ惨状

三日高崎奔電

東京名物浅草十二階ノ薩落ノ際ハ六百余
名其ノ下敷キトナレリ活動字彙館焼失ノ
際ハ三百余名猛火ニ包マレ焼死セリ。

② 二日午前九時ノ猛火

△船橋局奔無電ニ依ル

二日午前九時船橋無線電信局奔神戶港碇
泊某汽船着電ニ依レバ二日午前九頃ノ火
勢ハ猛烈ニテ既ニ北ハ千住南ハ品川ニ及
ビ爆奔相次デ起リ紅蓮ノ焰ハ東京全市ヲ
包ミ黒煙天ニ沖シ天日為メニ暗シト。

大正十一年三月三日
電通急電

日本電報

○小田原附近に傷者數萬

大海浪に襲はる

三日長野支局奔電

種々ナル情報ニ依レバ小田原町ヲ中へト
シテ海濱襲来シ来レシ爲メ小田原町及び
附近ノ町村ヲ全城ニ歸セシメ死傷者數萬
ニ上ル見込ミナリ。(三日午前 時 分着)

○有吉総臨ハ米木材ヲ

三日京城電報

朝鮮総督府有吉政務総臨ハ今次ノ大震害
ノ見舞トシテ米木材ヲ贈ル可ク調査中ニ
テ要求ト事情ニテハ何時ニテモ急送スル
事トナリ居レリト語レリ。

(三日午前

時

分着)

大正九年九月三日種認可

電通急四

日本電報

臨時議會召集

山本内閣樹立ノ上ハ今回ノ大震害ノ善後策ノ爲メ罹災民救恤ノ爲メ臨時議會ヲ召集シ救恤方法ヲ講ズル事トナル可レト。

聯合艦隊震災地急航

(三日靜岡縣長崎經由)

小田原所ハ目下盛ニ燃ヘ度アリ(三日午前零時)聯合艦隊三十餘隻所下司令長官指揮ノ下ニ神戸大改ニ於テ食糧ヲ積ミシムル事ニテ救護地ニ赴ク事トイレリ

(三日午前三時五十分発進)

大正九年九月三日 糧認可
電通前急共

四九 電報

○五十萬石食糧ヲ仰グ

農商務大臣ヨリ大改食糧局出張所ニ宛テ
五十萬石ヲ三日以内ニ送附スベシト傳達
セリ
(三日午前四時ニイカ着)

○利根食糧ヲ滿載シテ出航

(三日午後六時佐世保着電)

東京府神奈川縣地方露災民三萬ニ達
シ食糧品飲料水缺乏シ皆死ニ瀕シ居
リ東京灣ニ碇泊中ノ船舶タビ軍
艦富士ハ食糧品ヲ至急送附スル事トナ
レリ佐世保碇止軍艦利根ハ食糧ヲ滿
載シ三日午後六時出航ス

(三日午前四時ニイカ着)

大正九年九月十三日
電通前赴之
日本電報

①十三師團出動準備

三日高田系電

第十三師團八余令一下直下三區集二
應に昇ル様固到ル準備ヲ完了シ

タリ

三日午前四時三十分着

②帝國軍艦二隻沈没

横須賀海軍病院全焼

一靜岡三日系

横須賀軍港沈没中ノ軍艦二隻一艦名
不明沈没シ海軍病院八全焼也

リト

通前

日本電報

◎伊國ノ反希臘熱高潮

△全佛國ニ漲ル

一日倫敦電報

巴爾幹半島ニ燃ユル巨火ヲ投下スル危險
ハ歐洲大戦ノ奔端ヲ爲セルニサラエバー
事件當時ヨリ今日ニ於テ更ニ急ナルモノ
アリローザン又協約ハ土耳其若シクハ希
臘ニ充分ノ満足ヲ能ヘザリレノミナラズ
ブルガリヤハ海ノ出口ヲ奪ハレタルニ就
キ深ク落膽シ其ノ他アルバニヤ境界線設
定ノ如キモ恨ミノ原因ヲナシ居レリ倫敦
ニ於ケル各新聞紙ノ諸説ニ因ルモ明白ナ
リサレバ伊太利ノ憤怒ニ對シテハ同情ニ
價スルモノアルカムツソリニ一氏ノ臆計
ニシテ過激ナル行リロヲ遺憾トシ斯クノ
(ツ、ク)

如キハ歐洲ノ平和ヲ甚ダシク危殆ニスル
点ニ於テ諸新聞紙ハ其思議ニモ意見が
一致シ居リリ 尚右新聞紙ハ希臘右新聞が
希臘政林ノ証拠ナキ犯罪ニ對シテ飽ク追
モ責任ヲ負フベキモノナリト説キ居ルハ
疑問トシ何レモ今回ノ主議ヲ幸ニ本日会
議ヲ開ク旨ニテ國際聯盟ニ附托スルコト
ヲ要求シ居リ更ニ裏面目ナル批評家ハ
ムソリニー氏ガ口ニ唱フル程度迄実行ス
ルコトハアルマイト信じ居ルカ甚矣ハ
之ニ反シテ伊太利全部ニ漲ル反希臘運動
ハ愈激烈ニナラントスル有様ナリ今ヤ伊
太利艦隊ハ秘密ニ命令ヲ發セラレタリト
云フ風説ハ不安ノ動機ヲ起シ次ニ採ラン
トスルムソリニー氏態度ニツキテハ多大
ノ注意ヲ拂ヘ居リリ。

大正九年九月一日三厘認可
電通前四

日本電報

◎政友派神崎氏當選

福岡縣第十區ノ衆議院議員補缺選舉ハ六
千九十七票ニテ政友會ノ神崎勲氏當選セ
リ

◎黑政府正式承認

(一日華府電報)

一日發表サレタル所ニ依ルト米國政府ハ
墨西哥政府ヲ正式ニ承認セリト

金九年九月百三禮認可
電通前 三

日本電報

⑤大阪三市場休會

大阪ノ株式、綿絲及ヒ堂島期米ノ三市場
ハ三日ノ立會ヲ如何ニスベキヤニ就キ協
議ノ結果多數關係者ニ影響大ナルコト、
被害詳細不明ナルコト、變動大ナル可キ
コト、災害者ヘノ慮慮等ヨリ一切ノ事情
判明スル迄立會ヲ休止シスベシト

⑥神、京、名古屋各市場モ休會

北浜株式市場ハ三日休業スル事ニ決定シ
タルヨリ神戸、京都及ビ名古屋ノ各市場
モ同様ニ休業スベシ

大正二年九月三日 愛報

◎ 山本内閣親任式

山本内閣ハ二日午後五時在松親任

式舉行ス

内閣總理大臣、軍外務大臣 山本權兵衛

内務大臣 後藤新平

大藏大臣 井上準三郎

陸軍大臣 田中義一

海軍大臣 東郷平

司法大臣 平沼騏一郎

文部大臣 岡野敬次郎

農商務大臣 田健次郎

逓信大臣 大妻教

鉄道大臣 山内一次

三日午前三時金澤支局強兵長連

支局廻り長嶺支局出張線止

二日 月 方 二 報

大正九年九月三日 電通本部

日本電報

① 強トト全部焼失

(長崎高等三小計三時四十分)

東京市内 各所焼失 強トトハ東区
牛込ノ一部 中野ノ一部 麻布ノ大部
今三ノ其以外、本所、深川、下谷、神田、
東橋、日本橋、芝、豊洲、牛込、四谷、
麹町等、殆トト全部焼失也

(三ノ其以外ノ一部等)

② 電通本社ハ帝國電報ノ

日本電報通信社ハ帝國電報ノ
焼失強トト一部焼失 臨時事務所ヨリ電
各所ヨリ 強トト一部焼失

(一ノ其以外ノ一部等)

大正九年九月一日確認可
霞通急ノ七

三
日 本 市 報

①臨時震災救護勅令

(長野冬冬三ノ霞求)

政府ハ以テ急遽勅令之リテ臨時震災
救護事務所ヲ設置シ食糧事務
所ヨリ食糧ヲ供給シ外東武大段、各
古堡方面ヨリ軍艦又ハ商船ヲ急遽
ニ到着セサスベシ、而シテ東市ニ於ケル
一ツノ消費米ハ約一萬石ナルガ爲メ急
的飲料水ハ目下或ハ方面ニテ準備
中ナレド近シ後ハ見込ナリ

(三〇年おへり事ト)

大正九年九月三十一日
電通各人

日三
電報

① 緊急勅令發布

(養生局為救災三日來三時)

二月廿八日九時、震災救助會、
臨時開會、議決、內閣臨時審判
以下各大臣出席、如左、如左、
急勅令、發布、

一 救災會、(區域東京市、荏原郡、
豐多摩郡、北豐島郡、南足立
郡、南葛飾郡)

二 救災令施行令

三 臨時救災令

四 臨時救災事務局設置

(三月廿八日五時)

大正九年九月三日 三種認可 日本電報
電通急ノル

◎東京新聞社全焼

○東京新聞社全焼

東京の主要新聞社の報知新聞社八重二
遭難ノ見レ地ノ朝日、事時報社
又々全部焼失レ新聞ノ発行不能
能ハサル

(三日午前五時長火災の由)

◎愈々火災取締奉行

(三日長火災の由)

関東地方ノ強震ニシテ損害ノ程度ハ
今なお不明ナルガ東京、横浜、全
域ト云レル以上経済界ニ及ス
影響甚大ナルハ社会市場ノ破壊

（マ）

大正九年九月三日 皇權認可

日本電報

電通急ノ一〇

ハ資本ノ破壞トナリ引續キ不況ニ臨
レニ戦界一段ト沈衰、状態ニ臨ルベシ
之レ事ノ禍害ニ意ジ何レノ株主ニ甚
大ノ低落ナルハ意ヲ俟タス更ニ災害
ニ直接関係有ル木材ヤメント其他食
糧品ノ騰貴ニ想係ニ難カラス政府
ハ非常手段取ルモ之速ニ果利取
綿金ヲ発行シ食糧品ノ取締ヲナカ
有スヘシ又新債工部ノ決定ニ據テ
ハ約三十萬圓増上ニ上ルベシ更ニ之
際、ハ山内附近々々々々實ニ七十萬餘圓
ノ増上ニ上ルベシ尙更ニ之線物諸工場
ノ増大線機三千五五百台ニ上ルベシ事
ハ衣服ノ昂騰ヲ来スベシ憂又爲ル
ニシテ、レハウリ
(三〇年九月時分)

大正九年九月三日
電通第一
日本電報

○賀陽宮妃、山階宮御負傷

○軍醫急遣、令達アリ

（三日名古屋発）

鎌倉ニ御避暑中ナリシ賀陽宮殿
下ニハ妃殿下タビハ山階宮殿下ニハ御
負傷ノ趣キニテ軍醫急遣アリタキ旨
ノ令達アリ尚本報上ノ際ハ政府
ヲ準備提帶セラルト附言サル

○松方公モ負傷

（名古屋支局三日発）

西那須野ニ静養中ノ松方公モ負傷ノ趣キ
アリ

（三日午前七時着電）

大正九年九月三日三時認可
電通急十二
日本電報

帝大附屬病院焼失

(長野三日早電)

東京帝國大學附屬病院ハ三日午前
八時全焼其ノ際五百余ノ患者ハ逃
場ヲ失ヒ焼死セリ

(三日午前十時着)

① 廊焼失ノ惨状

(長野三日早電)

吉原洲崎各道ハ其ノ全部焼失倒壊
シ娼妓ハオニニシテ逃ルガ途ニ三介ノ
一六百人ハ焼死シ延焼ヲ極メ居リ

(三日午前十時着)

大正九年九月三日 三種認可
電通 第三十三

九三
日本電報

① 深川ノ避難民三十萬

▽餓餓ト渴ニ瀕死状態

深川ニハ三十萬ノ避難民アルモ何レモ糧食缺乏ノタメ餓餓ニ瀕シツツアリ
木船ヲ芝浦岸壁ニ着ケヨトノ電報
アリ横須賀ヨリ廻航ニ至ナリ

(一三日午前十時二十分着)

② 浅草觀音堂焼失

▽死体散乱シ博惨ヲ極ム

浅草觀音堂ハ焼失セルガ其ノ時惨死
者ノ死骸ハ本堂附近ニ散乱シ博惨ノ
状ヲ呈シ居リ其ノ死体ハ全ク打棄
セラレタル儘ニテ収容スルモノナク惨
狀其ノ極ニ至リ
(三日午前十時二十分着)

電通多山一回

日本電報

◎東京今朝尚燃

(三日大段多の燃出)

三日午時零時五十分大段多の燃出

入電に依るに

東京市内の今尚燃入つてあり可燃

性ノ建築物を燃しつゝ近所第一西師

團ノ兵士が爆弾を投じつゝ破像

に燃火を喰へて入つてあり

(午前十時四十五分燃入)

○の日の日の日の

○横濱元城の燃入

(神戸方面より燃入)

神戸無線電信局ノ燃入

二の横濱元城の燃入

大正九年九月四日三種認可
電通電報
電報

◎ 明 陽 者 十 萬 人

(三) 卡 生 子 日 明 陽 者

二 日 午 迄 東 京 及 附 近 一 死 陽 者 十

其 數 約 十 萬 人 之 達 々 々 々 々 々

二 於 之 食 糧 其 他 飲 種 水 一 飲 之

ハ 甚 々 シ

(午 前 十 時 五 分 下 着)

◎ 大 皮 師 團 一 出 動

(言 大 隊 向 希)

又 師 團 司令 部 二 日 午 迄 二 時 三
十 分 和 洋 機 三 機 力 建 中 尉 が 所 快
二 日 前 也 二 陸 軍 大 臣 一 命 令 二 日 大

陸 軍 將 持 敵 二 日 八 輪 運 二 日 捕

ハ 甚 々

大正九年九月五日午權認可
電通 急ムル一六

日本電報

二番手シテ急ムル大津市以下師團
司令部將校各隊之向ケ衛生材料
及軍需品收護班一編成準備中
シツル凡カ二日午後六時東京市
戒嚴令布カレシト至ルアリ兵力ノ
不足ヲ覺ケ或ハ東京市郊外ノ師團
ノ出動命令アリ是レト至ルモ知ルガ
カ方ハ師團等ハ方ハ極力直航
ノ始便ヲ有ルモノ多ク降軍官下
各部隊之由命シテ出動中ナルヲ得ル
標内達シテリト

(東京市及市外各隊)

大正九年九月三日三時認可
電通是十七
日本電報

① 不逞鮮人團勢不穩

ハル器ヲ携ヘハ王子ニ潛入

一日午後七時某所着電ニ依レバ二日正午
戒嚴令發布ニ伴ヒ東京ヲ追ハシタル
約二百名ノ不逞鮮人團ハハル器ヲ携
ヘテハ王子ニ入リムニ不穩ノ秋勢アリ
リ市民ハ恟々タル有様ニテ附近ノ山
中ニ避難シ警員ハ官公吏青年團ニ
武裝ヲ許シ之ト相携ヘテ不逞團ハ
王子侵入ヲ防止シ居レリ右不逞團
ハ横浜東京等ト連絡ヲ有スト傳ヘラ
レ居レリ

長野支局有ニ午前十一時
十五分着

大正九年九月三日三種認可
電通道ノ十八

日本電報

①東京縣内部ハ原秋ヲ留メズ

（金沢支局兼電）

當地縣事務所ニ達シタル情報ニ依レ
ハ東京縣ハ傾斜シテ内部ハ原秋ヲ留メ
スト
（三月午前十一時十五分）

②上野ノ猛獸ヲ銃殺シ危險防止

上野動物園ニテハ森火ト同時ニ象、ライ
オン能等其ノ他ノ猛獸ヲ銃殺シテ危險
ヲ未然ニ防ゲリ

③上野半避難三萬

上野駅焼失ト共ニ山中ニ逃ゲタル
難民ハ約三萬人ナリト言ハル

大正九年九月三日
電通急一九

日本電報

○東京ハ流言蜚語盛ナリ

△附近縣ヨリ救済巡査

三曰松本本社特派員奔

東京市ニテハ流言蜚語頻々トシテ起リ人
心恟々タルヨリ警視廳ニテハ二日午後四
時群馬縣ヨリ百名長野縣ヨリ四百名ノ救
済巡査ヲ求メタリ（午後五十分着）

○近衛兵營モ大破ス。

三日松本本社特派員奔

近衛師團ノ兵營ハ大破シ軍隊ハ營庭ニ天
幕ヲ張り生活ヲ爲シ居レリ二日午後二再
ビ強震アリ二名ノ兵卒ハ即死セリ

（三日午後四時五十分着）

大正九年九月一日三連報
電通急ニ。

九、三、
日本電報

◎東京附近震害一例

▽村下川口町ハ全滅ス

三日長野電報

二日午後東京府下川口町ハ強震發回起リ
全壊家屋五百戸半壊一千五百ニ達シ町内
各所ニ火災起リ同町ハ全滅セリ。
三日午後ニハ着

①二日午後五時調靜岡縣被害

三日靜岡電報

九月二日午後五時靜岡縣礦ニ達セル縣下
各方面ニ亘ル災害ハ左ノ如シ

一死亡者百七十三名 一負傷者八百三十

四名 一、行方不明十五名 一家屋全壊

千八百六十五戸 一半壊三百四十四戸

一燒失家屋五百八戸ナリ

(右同)

大正九年九月三日認可
電通急一二

日本電報

○十四 仰園村動

(三日金沢方面陸奥長連より電報)

宇都宮。又十四 仰園村陸軍大臣より
出動命令あり。また高州縣陳
ハ二日午後十時より上り列車三輪

送り開始なり

(三日午後一時半より)

○富士 約ハ生地獄

(左)

二日午後九時静岡縣村山より三島
へ通せん。報道より富士山麓ノ職工ハ
敢て不穩ハナリシ。又。列ノ閉鎖
シ。ありト死傷者一千五百名以上ニ
上リ現場ハ全ク生地獄ト化ス

大正九年十一月三日
電通五三ノ一二

九一三
日本電報

②長野、東京戒嚴令

長生、東京向旅、〇〇〇〇〇〇〇〇
旅力、益々悪化、戒嚴令、三日、
〇時、エ、布、重、食糧品、
帯、有、無、拘、何人、ト、重、
又、又、重、ヤ、ル、大、
排、レ、死、リ、的、
ケ、生、タ、又、数、萬、人、
續、ミ、リ、返、レ、各、
近、一、帯、大、振、動、

(三四年、十一月、三日)

大正九年九月一日三種認可
電通三三

九三
日本電報

① 艦隊東幸博覧會

(長崎より三つの中へ)

他世保軍場 爲無線電信所載

二保しん

此本司令官官機下ノ第一艦隊

二部ハ既ニ東京博覧會ニ到着シ

其他ハ他世保、呉、神戸ニ廻航シ

食糧品運搬ノ行動ヲ開始ス

(二日午後一時半分迄)

大正九年九月二日三應詔可
電通急二四

九三
日本電報

○高田師團へモ動員令

高田第十三師團ニ對シテ陸軍大臣ヨリ動員ノ命令アリタルヨリ左師團ニテ八目下準備中ナ

(三〇午後二時十五分)

○省線停車場全焼

御茶ノ水萬世橋、右樂所ノ各停車場ハ全焼セリ 一全

上

○駆逐艦副食物輸送

(大改三台系)

三〇午前十時入港セル第十四駆逐艦神風川風玉葱ニ百貫干菜ニ百荷馬鈴薯五百貫里芋五百貫牛蒡八百貫ヲ積入メリ

大正九年九月五日種彦
電通二十天

日本電報

①貴冢西院ノ建在

内務省ニ陳述ノタメ上京セル島根縣屬
某氏ニ曰夜長野駄通焼テ残レル
ハ貴冢西院ノミニテ女省ハ殆ンド全滅
シ和名ナル呉服店ハ全焼失セリト語ル

(三日午後二時十五分着)

②徵帑令ヲ示スル

内務次官ヨリ大阪通商マツ経テ大阪府
知事ニ今三日徵帑令ヲ示シタル
ヨリ必要物品ハ徵帑書ヲ地方官ガ
テニ救援ニ要スル物品ヲ徵帑スル事
ヲ開ルトノ令アリタリ

(三日午後三時着)

大正九年七月、日米種認可
電通二十六

九、二
日本電報

◎東京震災ヲ御軫念

▽新宿御苑高輪等ヲ圍放

宮内省ニテハ新宿御苑、高輪御所、燒
跡、深川猿江町ノ蓄材場及ビ浜離宮
ヲ開放シ罹災民避難所トシタルガ宮
城和田倉内前ノ廣場ヲ取敢ズ罹災民
數4名ヲ收容シ炊山ヲナセリ又搬水車
全部ヲ出動センメ市民ノ給水ニ從事セン
ノ居レリ三日午前一時栃木縣ノ警官
ハ危険ヲ侵シテ宮内省ニ出頭シ日毛
田丹次ノ兩陛下ニハ無事ニ渡ラセラレ
ル旨ヲ報告セリ

更ニ宮内省ニテハ所沢陸軍航空隊ニ命ジ
兩陛下ニ奉ルベキ東京市ノ震災ニ關

大正九年九月廿五種認可

九三

留通ニナセ

日本電報

スル報告書ヲ捲セ日光ニ向ハンメカリ
東京殿下ニハ一日夜一睡モ在バサレズ
宮内省ヨリノ奉告ヲ悉ク御覧アラ
セラレタリ (三日午後二時五十分)

○重大事件又発生?

△八王子横浜両地不穩狀態

(金沢三日報)

高田第十三師團ノ出動準備ハ三日夜半
ニ行ハレル筈而シテ當局ハ此ノ出動説ヲ
否定シ居ルガ其ノ後某所ニ達シタル情報
ニ依ルハ八王子横浜両地方ニモ東京ニ於
ケルト同様不穩狀態ニ在リ或ル事件發
生セリトモ傳ヘラル。

△日午後四時ナカ分着

大正九年九月一日 雜記
國道急電

日本 報

○大政義捐金取扱高

大政義捐所ニ於ケル義捐金取扱高ハ目下
二萬六千圓ナルガ北沢ノハ川健三郎氏ハ
一萬圓ヲ提供セリ（三日午後四時三十分）

○審査ヲ上入京許可

東京ニハ今ヤ戒嚴令布カレ一般ノ入京ハ
禁止シ公務ヲ帯ビタルモノト相續食糧
ヲ提帶セルモノナド東京市ニ親戚ヲ
有スルモノニ對シ三日ヨリ審査ヲ上入
京セシムル等ナリ

（三日午後四時三十分）

水正九年九月一日午後三時
電報急二十九
日本
電報

○天幕所服送附傳達

二日午後陸軍大臣ヨリ岸本第五師團長ニ
宛テ罹火者救護田トシテ天幕布及ヤ
兩服各ニ四個至急送附アレトノ傳達
ヲナセリ
(三日午後四時三十五分)

△△△△△
○千葉市金滅ス

天幕希電

八時ヨリ甲府松本經由當地ニ着セル
電報ニ依レバ千葉市ニ大火起リ全
市焼失セリト

(三日午後四時三十五分)

大正九年九月一日
電通金三〇

日本電報

○山本伯負傷人

(長野支局系)

一目内閣組織最中ニ永友社ニ階墮落
ニ山本伯ハ負傷セリ

(三日午後四時三十五分)

○日本銀行遂ニ全焼

(富山支局系)

日本銀行ハ二日前三時大火災ニタ
遂ニ全焼セリ

(三日午後四時四十分着)

大正五年四月三日 日本郵報

◎房州帶 震害◎

西園橋ヨリ千葉鉄道ノ隧道崩潰ハ
三箇所ニ及ビ各線共一列運転セラレ全
通ノ見込カタズ更ニ水更津所ハ全所
火ニ包マレ全滅ト言フ 鉾子附近ニ被
害多キ見込ナリ

(三日午後四時五十五分)

◎横濱水陸交通杜絶◎

横濱遊泊中ノアマゾン丸ヨリ神戸在港ノ
アラビアルニ着セル無線電信ニ依レバ
横濱港遊泊船陸上トノ交通三日午
前三時全ク杜絶ス

(三日午後四時五十五分)

大正九年九月二日三種認可

電通 三三二

日本電報

○和行通信開始

(三日各務局電報)

各務局和行通信三大隊二二八第三師
團長ノ命ニテ東軍方第一通信
信聯絡ノ任ニ當ルモノ和行機八台
使用ト東部ニ向テ準備アリテ了

(三日午中回線あり)

○東軍和行通信準備中

(三日午後三時電報)

東軍市ノ電報局令ニ布告セラル
リ鉄道省ヨリ各駅ニ對シテ
東軍和行ノ電報ヲ又テ禁止スルヲ禁
止ス

水牛年 月 日 時 分 可 恒 高 級

○横濱 石田文之 爆 炸

(三日月 周 吉 司 馬 氏)

横濱 高島町 駄馬 辻 轉 西 陽 貨

車 人 當 時 其 附 近 一 路 江 江 江

石 田 文 之 爆 炸 并 同 地 附 近 一 帶

火 災 起 了 之 後 又 多 起 一 起 傷 者

4 名 人 横 濱 三 時 許 一 帶 大 火

外 出 行 走 水 火 災 後 噴 出 水 汽

り (三日月 周 吉 司 馬 氏)

○ 横 濱 石 田 文 之 爆 炸

以 前 横 濱 石 田 文 之 爆 炸 中 有 一 人

平 的 井 田 氏 其 氏 在 大 地 震

後 人 多 傷 亡 其 氏 亦 津 病 後 亦

平 的 井 田 氏 (七)

長生九年九月一日 程認可
南通急云

日
本
支

① 上
部
缺
口
快
口
口

言金快理由長此舞多來

上野 秋人 午後二時 遊焼 金焼
や 同所 講掛 文 遊 難 氏 一
方 上 野 中 遊 一 方 列
車 内 遊 文 北 死 傷 者 多 數
見 込 あり

三
日
午
五
時
分
鐘

大正三年九月五日
陸軍省
陸軍大臣
陸軍省
陸軍省

日 本 報

△△△△△△△△△△
①十四師團へ食糧要求

二日午後十一時、第十四師團長宛、事務
原飛行場ヨリ陸軍大臣ノ余トシテ
更ニ題題十萬斤、米三十石ヲ敏東
ル方、茲ヲ以テ東京ニ送附スル事ト別
ニ民間ヨリ極力物資ヲ買上グベキ旨
電令シ來レリ

(三日午後五時十五分)

電通信急シク大

日本

電報

○重大ナル御遭難

(静岡支局系電)

鎌倉ノ御別邸ニ御避暑中ナリシ

山階宮大妃殿下タビ賀陽宮大妃

殿下ニ大敵震ニ際シ重大ナル御

遭難ニ罹ラセラルタルニ傳ヘラル

(三百年後五時二十五分)

大正九年九月一日三禮學
電通短

ハ、
日 本 電 報

①ウ井ナ天文台ニ激震ヲ感ズ

ウ井ナ一日条

一日午前四時三十分ヨリ八時迄四時間ニ
亘リウ井ナ天文台ノ地震計ニ未曾有ノ
激震ヲ感ジタリ

②長沙ニ民兵蜂起

(上海一日条)

長沙來電ニ依レバ湖南西東部ニ民軍蜂起
シ數都市ヲ陥落セリシハウ鐵道ノ一部ヲ破
壞シ其ノ前進ヲ阻止セリ

大正九年九月三日

西通三ノ特三

日本電報

◎本社特派員日談

(三日長生寺の地獄電報)

今朝長野駅三番せん日本電報通
信社員兼子木氏東京市ノ電報局
ニ就テ談ハシタリ

自分ハ二日午後三時帝國ホテル本社
假事務所より出ル途中自働車ヲ
願驛ニ至ル同地より列車換ヤルガ
列車内ハ避難民三ノ熱々サレ川口駅
附近ハ被災甚大ノ模様ナリ、東
京市内ノ被害最モ甚クシキハ足腹
橋及砲台工廠附近ニ至ル處死屍
累々トシテ展ル、戒嚴令ハ九月の

全大車九月三日

電通云、特、

九、三、
日本電報

布カレタリ同時ニ殺奔令ニ奔布
セタリ、戒嚴令奔布ト同時ニ軍
隊ハ乗用及貨物自動車ヲ殺
奔セシメ、傷者ノ収容ニ努ム市
内ノ秩序恢復ニ盡カレ居レリ
自分(車カモ特祇員)ハ萬難ヲ排
シテ帝國モアル出ダレ、内ノ焼
跡ヲ過ハリ、戒嚴令下ノ帝都ヲ左
右ニ死シ、見、軍隊ノ保護ノ下ニ青
海街道アリ、願、駛ニ出シタリ

(三日午五時五十分)

大正九年九月三日種認可
電通急ノ三三

日本電報

◎ 平館 懐 哉 古 塔 如 少

櫻政宮殿下ノ市街 離宮危険ナ
ルヨ青山御所ノ下ニ有リ古塔懐
ナリ市街ノ中樹ノ如ク東ノ市
全市ノ殆ト灰燼ト化セリ西洋
館懐哉ノ古塔ノ如ク幾ノ先ニ
ナリ難民ノ各ノ國、明治神宮
其他ノ空地ノ事ニ及ニ集死傷者算
ナ知ル

(三ノ市街ノ事ニ及ニ集死傷者算)

◎ 芝 浦 ノ 懐 哉

(三ノ市街ノ事ニ及ニ集死傷者算)

東芝芝浦一帯ノ如ク灰燼ニ没イレ市
街ノ事ニ及ニ集死傷者算

(一)

(七)

大正九年九月一日三種認可
西郷三郎

日本電報

①死亡者十五萬人

(三〇日暴死者五千人)

海軍大臣の公報によれば死亡者ハ
十五萬人に達する見込罹災者ハ
四月一日より三十三萬に達し衣レリ

②政友会幹部全滅認可
(三〇日暴死者五千人)

(三〇日暴死者五千人)

政友会本部は幹部全滅認可
中より高橋武夫以下幹部三十
名ハ本部連絡倒壊ト其ハ避難
ノ還テク歴死セリトノ噂ノ中央
線ノ某事案ハ南緯アリ

大正九年九月三日三種認可

電通三四〇

映三
日本電報

◎東京市陸海軍全焼

其及焼失ノ建築物ハ

一東京市廳、市役所、

一陸軍省、海軍省

(以上)

(三日午後三時三十分)

大正九年九月三日種部

電通云々

九五
日本電報

○米大統領ノ見舞電

(長生云々)

今四ノ大震災ニ付米大統領ノ
一ノハハハ無縁電信ヲ我ガ
駐米上陸下ニ對シタル如ク電報ヲ
寄セシメ

の本國民が米國前ノ天災ニ遭遇
シツアル事電報トシテ亞米利加
ニ達シ驚愕惜シ為リ知ズル所ニ
陸上下ニ對シ余自對及亞米利加國
民ノ名ニテ哀心同情云々云々
素々

此ノ電報駐米氏ノ困苦ヲ感ス
ル處アルハ如仰ル如力ヲ惜シム
ニアラス

(いりき)

櫻上り電

三日本電報

九月二日 亞木利が大統領

クーリツク

（五の午の字の三）
◎松方公宛

（三の松古屋の字の希）

松古屋鉄道 函電 伝

鎌倉の避暑中ノ松方老公ト其
傷也其後ノ建過面自カズ目下
尚ハトナリ

（五の午の字の三）

大正九年九月三日 豊通台より

日本電報

○横須賀火全滅

(三日午前十一時頃)

三日午後一時水産試験所着無電

二日午後三時頃横須賀市へ

全部焼失甚し署鎮火せんが

至ん處死傷あり而して交通ハ

辛うじて出来得ん様ナリ

(五日午後七時頃)

○四谷火災不明

三日午後九時三十分頃火は柄トレ不

明前情不明はけ僅良のる火災

不明なり

(一)

(上)